

## わが家はクレオール

荻野 アンナ  
おぎの

父親はフランス系アメリカ人。より正確にはフランス生まれのアメリカ育ちで、イタリアやスペイン、クロアチアの血も入っている。それだけで国際的な家庭との印象を与えるようだ。

顔が父とそっくりな私は、生まれも育ちも学校も日本だが、初めての人には「日本語お上手ですね」と言われることがある。せっかくの期待を裏切っても悪いからと、急にたどたどしい言葉づかいになり、謎の外国人を演じたりもする。

「日本語、シャベルノハ何トカナリマスガ、漢字、トツても難シデーズ」

これは別にウソではない。もともと誤字脱字が多い上に、ワープロを使うようになってから、漢字を忘れやすくなっている。

外見は「国際的」だが、残念なことに、母国語以外は「ぺらぺら」というわけにはいかない。船長として世界を飛び回っていた父とは、子供のころほとんど話す機会がなく、父親というより、時々オミヤゲを持ってどこかのおじさん、ぐらいに思っていた。

英語は中学、フランス語は大学で始めた。退職した

父と、ようやく無駄話ができるようになって、困ったのは言葉である。父の日本語能力はひどいもので、帰宅した私を「イッテラッシャーイ！」と迎えてくれたことがある。そういう私も、英語で始めて最後まで続けられずに、途中でフランス語に切り換えたり、日本語を混ぜたり、というありさま。

He is very ケチンボ、n'est ce pas ?

これで通じてしまうのだから恐ろしい。ある種の単語、たとえばウンチャオシッコが必ずフランス語になるのは、父が幼年期をあちらで過ごしたためかもしれない。母に今夜はライスにするか、ブレッドにするかと問われて、父のほうでごはんと答えたりもする。

かくして家族以外の誰にも理解不可能な、オギノ（母方の姓）- ガイヤール（父方の姓）系クレオール言語が誕生した。ちなみに私はガイヤールで生まれたが、小学生のとき帰化してオギノになった。その折、アンナという名前に漢字を当てはめねばならなくなり、戸籍上は荻野安奈が正式である。

「荻野安奈」 「荻野アンナ」、そして「アンナ・ガイヤール」。名前は三つだが、舌はひとつだけ。父は英語、母は日本語で同時に話しかけられて、さてどちらで答えたものが、と今日も首をひねっている。

(小説家)

表紙エッセイ

わが家はクレオール

荻野アンナ (小説家)

新任のごあいさつ

小松 諄悦 (国際交流基金日本語国際センター副所長)

特別報告

海外の日本語教育の現状

- 1998年海外日本語教育機関調査の結果について -  
国際交流基金日本語国際センター情報交流課

国際交流基金日本語国際センター設立10周年記念国際シンポジウム

「日本語は役に立つか?

~ 国際語としての日本語の可能性を探る ~」を開催して

日本語国際センター総務課

中・上級 新聞・雑誌から見る現代日本

第5回 大学入試センター試験問題

本コーナーは著作権の関係でホームページへの掲載ができません。

初・中級 写真で見る日本人の生活

通勤

日本語・日本語教育を研究する

第13回 第二言語習得研究に基づくシラバス・デザインのお方

長友和彦 (お茶の水女子大学大学院人間文化研究科教授)

初・中級 授業のヒント

初級レベルの作文

本ばこ (新刊教材・図書紹介)

国際交流基金開発教材紹介

日本語国際センター制作事業課

ニュース・編集部から

Essay

“CREOLE” Family

Anna Ogino (Writer)

Inaugural Address

KOMATSU Junetsu (Deputy Director of The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa)

Special Report

Survey Report on Japanese-Language Education Abroad 1998

International Symposium Celebrating the 10th Anniversary of the Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa

“Is Japanese Useful?”

The Possibility of Japanese as an Intercultural Language

Intermediate and advanced Aspect of Japan Today in the Newspaper and Magazine

Entrance Examination.

(Enforced by the National Center for University Entrance Examinations.)

(This article is prohibited to appear on the web sight by copyright holder.)

Beginning and intermediate Japanese Life As Seen in Photographs

Attending Office

Research on the Japanese Language & the Japanese Language Education

A Syllabus Design Based on the Study of Second Language Acquisition

Kazuhiko Nagatomo (Professor, Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University)

Beginning and intermediate Ideas for Japanese-Language Classrooms

Beginning Level Composition

Book Shelf : Introduction of New Titles

Teaching Materials Developed by the Japan Foundation

Photo Panel Bank CD-ROM

Miscellaneous News From the Editors

マークは、読者が教えている生徒のレベルを示します。

mark indicates the level of students whom readers are teaching

新任のごあいさつ

国際交流基金

日本語国際センター副所長

小松 諄悦 (こまつ じゅんえつ)



2月のすえにバンコクでの4年半の勤務をおえ、帰国し、日本語国際センターに配属になりました。歴代の副所長の功績をけがさないよう努力していくつもりですので、よろしくおねがいします。

さて、当センターも設立11年目にはいりました。これまでの10年が草創期であるとする、いまは成熟期にいったといえるのでしょうか。98年におこなった世界の日本語教育機関調査では、日本語学習者の数は約210万人でした。当センター設立直前の88年が73万人、93年が162万人でしたので、数のうえでは着実に増加しています。

当センターでは、今後は量的拡大とともに、質的充実におおきな努力をはらう必要を痛感しております。上記の調査では、各日本語教育機関のかかえる問題点についてもおきしていますが、その上位をしめたのが、リソース不足、とくに教材の不足や教材・教授法に関する情報の不足でし

た。各国の教育事情や母語にあわせた教材の開発や教授法の策定がのぞまれています。また、教育機材としては、コンピュータの活用が近年激増しているようです。初中等教育機関でも半数以上で使われています。このため当センターでも、インターネットによる教材、教授法などの情報の提供や日本語教師の意見交換の場としてのサイバーフォーラムの開設を予定しています。

日本語国際センターは発足からいっかんして、海外の日本語教育の基盤整備のために努力してまいりました。日本語教育の質量ともなう拡充のために、当センターがないうることにはかぎりがあります。しかし、加藤秀俊所長以下専任講師、職員全員力をあわせて、日本語教育発展のため努力していくつもりです。日本語教育関係者のみなさまのご指導、ご助言をお願いいたします。

表紙エッセイストプロフィール

荻野アンナ (おぎの あんな)

小説家。フランス系米国人を父に持つが、10歳のときに

日本に帰化。平成3年、「背負い水」で芥川賞を受賞。

その他「ドアを開めるな」「スペインの城」など著書多

数。テレビのコメンテーターとしても活躍中。



# 海外の日本語教育の現状

- 1998年海外日本語教育機関調査の結果について -

## 国際交流基金日本語国際センター情報交流課

国際交流基金日本語国際センターは、外務省在外公館、海外の日本語教師会等の協力のもとに、1998年度に海外日本語教育機関調査を実施しました。

この調査は海外の教育機関等に調査票を配布・回収する形で行われましたが、お忙しい中、調査票に回答いただいた各機関の皆様に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。回答いただいた機関には、この調査の報告書をお送りいたしましたので、調査結果の詳細につきましてはそちらをご覧ください。

今回はこの調査の結果について簡単に報告したいと思います。なお、韓国については韓国日語日文学会および韓国教育部の、台湾については財交流協会のデータを使用しております。

### 1 概況

今回の調査の結果明らかになった海外の日本語教育の全体的な状況は次のとおりです。

|       |                     |
|-------|---------------------|
| 教育機関数 | 10,930機関 (115カ国・地域) |
| 教師数   | 27,611人             |
| 学習者数  | 2,102,103人          |

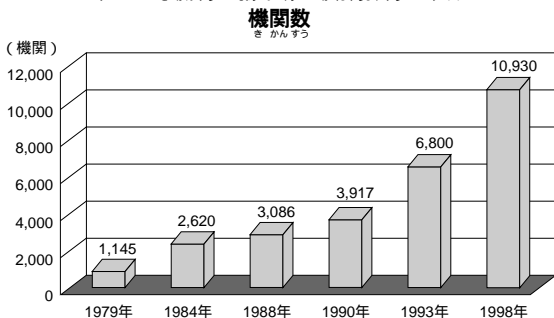
図1は、過去に行われた調査をもとに日本語教育実施機関数、教師数、学習者数の推移を示したものです。5年前の1993年調査結果と比べると、機関数で60.7%増、教師数で31.3%増、学習者数で29.5%の増加となっています。93年の前回調査までに急速な伸びを示した海外の日本語教育は、この5年間も伸び続けました。

### 2 地域別・国別の状況

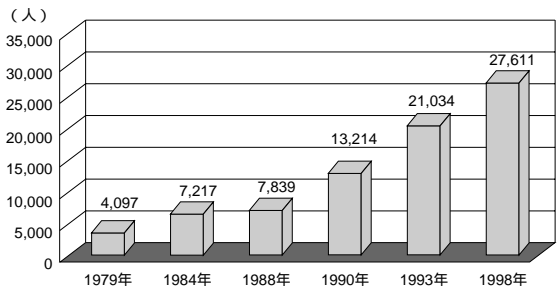
表1は機関数、教師数、学習者数の結果を地域別にまとめたものです。

学習者数の地域別割合をみると、東アジアがもっとも多く全体の65.4%を占めており、大洋州16.8%、北米6.4%、東南アジア6.3%、西欧2.3%、中南米1.4%、東

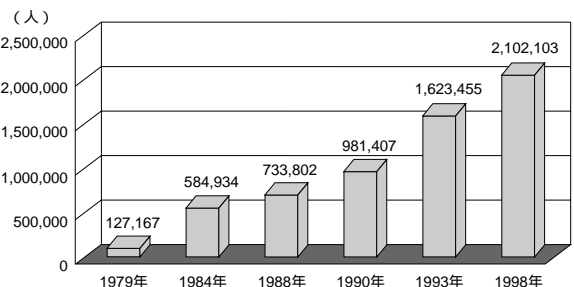
図1 機関数、教師数、学習者数の推移



教師数



学習者数



欧0.7%、南アジア0.5%、中近東・アフリカ0.2%と続き、アジアおよび大洋州の両地域で学習者数の約9割を占めていることがわかります。これらの割合は93年調査結果とほぼ変わっていません。

また、日本語教育機関数、教師数、学習者数の上位10カ国・地域は表2のとおりです。

学習者数の面から見ると、韓国が約95万人、オーストラリアが約31万人、中国(香港を除く)が約25万人、台湾が約16万人、米国が約11万人と、学習者数が10万人以上の5カ国・地域で海外全体の総学習者数の約85%を占めていることがわかります。

上位10カ国・地域以外も含め、93年の調査と比べてくに目立った動きを示した国を見てみると、アジア・大洋

表1 地域別の機関数、教師数、学習者数

|           | 機 関 数  |         | 教 師 数     |         | 学 習 者 数      |         |
|-----------|--------|---------|-----------|---------|--------------|---------|
| 東 ア ジ ア   | 4,177  | 38.2(%) | 12,470(人) | 45.2(%) | 1,375,598(人) | 65.4(%) |
| 東 南 ア ジ ア | 870    | 8.0     | 2,790     | 10.1    | 132,409      | 6.3     |
| 南 ア ジ ア   | 136    | 1.2     | 425       | 1.6     | 10,129       | 0.5     |
| 大 洋 州     | 2,209  | 20.2    | 3,848     | 13.9    | 352,923      | 16.8    |
| 北 米       | 1,748  | 16.0    | 3,413     | 12.4    | 134,761      | 6.4     |
| 中 南 米     | 470    | 4.3     | 1,495     | 5.4     | 30,076       | 1.4     |
| 西 欧       | 955    | 8.7     | 2,218     | 8.0     | 47,451       | 2.3     |
| 東 欧       | 294    | 2.7     | 756       | 2.7     | 15,085       | 0.7     |
| 中近東・アフリカ  | 71     | 0.6     | 196       | 0.7     | 3,671        | 0.2     |
| 合 計       | 10,930 | 100.0%  | 27,611人   | 100.0%  | 2,102,103人   | 100.0%  |

表2 機関数、教師数、学習者数の上位10カ国・地域

|    | 機 関 数    |       | 教 師 数    |          | 学 習 者 数  |            |
|----|----------|-------|----------|----------|----------|------------|
| 1  | 韓 国      | 2,660 | 韓 国      | 5,604(人) | 韓 国      | 948,104(人) |
| 2  | オーストラリア  | 1,744 | 中 国      | 5,156    | オーストラリア  | 307,760    |
| 3  | 米 国      | 1,522 | オーストラリア  | 3,131    | 中 国      | 245,863    |
| 4  | 中 国      | 1,098 | 米 国      | 2,850    | 台 湾      | 161,872    |
| 5  | ニュージーランド | 416   | 台 湾      | 1,198    | 米 国      | 112,977    |
| 6  | インドネシア   | 413   | インドネシア   | 1,159    | インドネシア   | 54,016     |
| 7  | 台 湾      | 342   | ブ ラ ジ ル  | 872      | ニュージーランド | 41,507     |
| 8  | 英 国      | 322   | 英 国      | 862      | タ イ      | 39,822     |
| 9  | ブ ラ ジ ル  | 304   | ニュージーランド | 650      | カ ナ ダ    | 21,784     |
| 10 | ド イ ツ    | 230   | タ イ      | 615      | ブ ラ ジ ル  | 16,678     |

州地域内では、スリランカ、モンゴル、ベトナムの学習者数が、いずれも3倍以上に増加しています。

米州地域では、米国で学習者数が2倍以上に増えており、カナダ、メキシコにおいても約30%増加しています。しかしながら、南米地域では学習者数が若干減少しており、ブラジルでは9%ほど減少しています。

ヨーロッパ地域を見ると、とくに学習者数が増加したのはイタリア、英国で、いずれも70%以上増加しています。また、ロシアでは機関数、教師数、学習者数のいずれもが2倍以上に増加しており、日本語教育が急速に伸びていることがわかります。

中近東、アフリカの両地域でも、学習者数は増加しており、トルコでは約1.8倍に増加しています。

また、各国の人口に対する日本語学習者の割合を見ると、韓国では49人に1人、オーストラリアでは60人に1人、ニュージーランドでは90人に1人がその国で日本語を勉強していることとなります。

これに対し、人口の多い国では、中国が5,050人に1人、米国が2,525人に1人となります。

### 3 教育段階別の状況

日本語教育を実施している機関の性格を「初・中等教育機関」(小学校、中学校、高校)、「高等教育機関」(大

学、大学院、短期大学およびこれに類する教育・研究機関)、「学校教育以外の機関」(成人教育、社会教育、語学学校など)の3つの教育段階に分けて海外全体の機関数、教師数、学習者数の割合を示したのが図2です。初・中等教育での学習者が全体の約66%となっており、若年層が日本語学習者の多くを占めていることがわかります。

初・中等教育の学習者が多い国は韓国、インドネシア、オーストラリア、ニュージーランド、米国などです。とくに、オーストラリアとニュージーランドでは学習者の約95%がこの段階に属しており、これは両国が日本語教育を政策的に実施していることによるものです。

高等教育機関では日本語学習者の専攻分野を調べました。この結果、日本語・日本研究を専攻している学生は全体の約20%で、それ以外の学生は、日本語・日本研究以外の人文科学や自然科学、社会科学などを専攻しながら日本語を勉強していることがわかりました。たとえば中国では日本語を学習する学生の約37%が自然科学を専攻しています。

民間の語学学校や大学の公開日本語講座等の学校教育以外の機関を見てみると、中・南米地域は、学校教育以外で日本語を学ぶ人の割合が67.2%と、世界各地の中で最も高くなっています。これは、とくに南米諸国の日本語学校で学ぶ日系人児童・生徒の数が多くに

るものです。

また、今回の調査では新たに組織内教育（企業内研修や公務員の教育など）についても調査対象に含めました。その結果、18カ国で4,883人が日本語を勉強していることが把握されました。

#### 4 教師の状況

海外全体で日本語を教えている教師の数は27,611人で、前回に比べ、6,577人増えています。1機関あたりの教師数をみてみると、初・中等教育機関では1.7人、高等教育機関では、4.4人、学校教育以外の機関では、3.9人となっています。

教師1人あたりの学習者数を見てみると、初・中等教育機関では126.8人、高等教育機関では、44.8人、学校教育以外の機関では、23.8人となり、初・中等教育機関の教師が、1人で多くの学習者を受け持っていることがわかります。

各機関の専任の教師の割合は、初・中等教育機関で70.6%、高等教育機関で60.0%、学校教育以外の機関で45.1%となっています。

また、日本語の母語話者教師の割合は初・中等教育機関で17.0%、高等教育機関で33.1%、学校教育以外の機関で39.8%となっていることもわかりました。

(注：教師の状況の分析は、回収された調査票の集計結果のみで行っているため、韓国や台湾などからのデータも加えた図2の数値による計算とは一致しません。)

#### 5 海外における日本語教育の目的

今回の調査では日本語教育の目的を15の選択肢の中から5つ選んでももらいました。その結果、教育段階ごとの上位5つの目的は表3のとおりとなりました。

「日本文化に対する興味」「日本語という言語そのものへの興味」「日本語を使ったコミュニケーション」が、全ての教育段階に共通する主要な目的となっています。また、「将来の就職に役立てたい」という実利志向の目的も全ての教育段階に共通しています。

#### 6 海外における日本語教育の問題点および今後の取り組み

日本語教育上の問題点については、11の選択肢の中から3つ選んでももらいました。

その結果、問題点として多くの機関が共通してあげているのは、「適切な教材の不足」「施設・設備が不十分」「教材・教授法情報の不足」でしたが、初・中等教育機関では「学習者が不熱心」、高等教育機関では「教師数の不足」、学校教育以外の機関では「学習者の減少」を問題点としてあげる割合が高くなっています。

また、今後日本語教育にどのように取り組んでいくかという質問では、15の選択肢から5つを選んでももらいましたが、「教材・教授法情報の収集」「学習者の学習意欲を高める努力」「学習者を増やす」「日本語・日本関係の図書資料の充実」などが、取り組み課題として上位になりました。

#### 7 おわりに

今回の調査によって海外における日本語教育の現状や、各日本語教育機関がどのような目的で日本語教育を行っており、また、どのような問題点を抱えながら日本語教育に取り組んでいるのかが、明らかになったと思います。

当基金でも、この調査の結果を参考にしながら、各国・地域の教育事情やニーズに合わせ、より効果的な日本語教育の支援事業を実施していきたいと思っております。

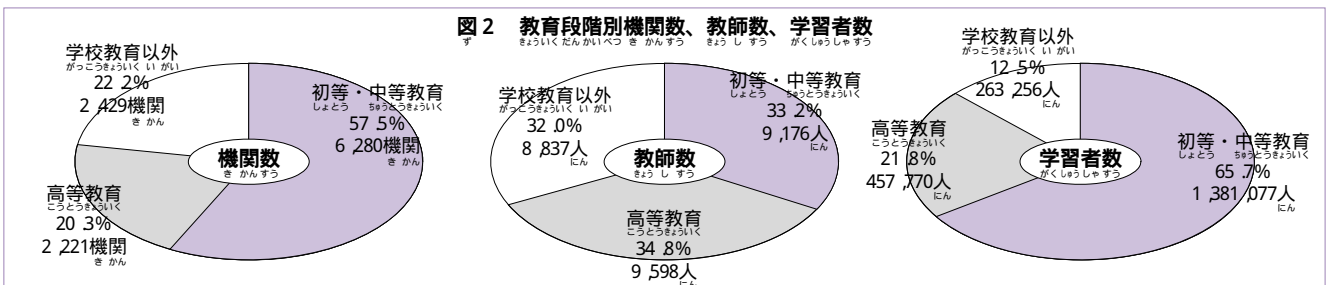


表3 日本語教育の目的（教育段階別）

|   | 初・中等教育機関        | 高等教育機関               | 学校教育以外の機関       |
|---|-----------------|----------------------|-----------------|
| 1 | 日本の文化に関する知識を得る  | 日本の文化に関する知識を得る       | 日本語によるコミュニケーション |
| 2 | 日本語によるコミュニケーション | 将来の就職                | 日本の文化に関する知識を得る  |
| 3 | 日本語という言語への興味    | 日本語によるコミュニケーション      | 今の仕事に必要な        |
| 4 | 将来の就職           | 日本の政治・経済・社会に関する知識を得る | 将来の就職           |
| 5 | 国際理解・異文化理解      | 日本語という言語への興味         | 日本語という言語への興味    |

# 「日本語は役に立つか？」

にほんご やく た

## ～国際語としての日本語の可能性を探る～

こくさいご

にほんご

かのうせい さく

かいさい

### 日本語国際センター総務課

にほんごこくさい

そうむか

#### はじめに

国際交流基金では、設立以来、海外における日本語教育・日本研究の振興を重点事業のひとつと位置づけてきました。その一環として、平成元年（1989年）埼玉県浦和市に日本語国際センターを開設し、海外で日本語を教えている先生方の研修や教材の開発、情報交流ネットワークの整備に携わってきました。平成11年（1999年）日本語国際センターは設立10周年を迎えましたが、これを記念して、12月1日、東京（国際交流フォーラム）において「日本語は役に立つか？ ～国際語としての日本語の可能性を探る～」という国際シンポジウムを開催しました。

#### シンポジウムの目的

もくてき

「日本語は役に立つか？」いささか挑戦的なタイトルですが、国際交流基金が1998年に実施した「海外日本語教育機関調査」によると、海外115の国や地域で、210万人に達する人々が日本語を学んでいることが判りました。5年前の1993年調査では、学習者数162万人という結果がでていますので、この5年間で30%も学習者が増えて

#### パネルディスカッション参加者

さんかしゃ

##### ●コーディネーター

加藤秀俊 国際交流基金日本語国際センター所長  
かとうひでとし こくさいこうりゅうききん にほんごこくさい しよしょう

##### ●パネリスト

シンチア・ネリ・ザヤス

海洋人類学者 アテネオ・デ・マニラ大学  
（フィリピン）  
かいようじんるいがくしゃ たいがく

アンナ・プロイノウスキ

映画監督・女優・作家（オーストラリア）  
えいが かんたく じよゆう つか さか

ピーター・グリーリ

コロンビア大学ドナルド・キーン日本文化センター  
所長（米国）  
だいがく べいにく せいしやう

ビクトル・アントニオ・ドス・サントス

開業医（眼科）（ブラジル）  
かいげうい がんか

ジュリアン・グリエ

日欧産業協力センター欧州事務所代表（ベルギー）  
にちおうさんぎょうきょうりょく とうりやうじ むしよだいりやう

イシュトヴァーン・セルダハイ

駐日ハンガリー共和国特命全權大使（ハンガリー）  
ちゅうにち ほんがり けいわくこくとうめいぜんけんたいし

イリーナ・マハラセ

ENIグループ副社長（ロシア）  
ふくしやちやう

いる計算になります。しかも、学習者の年齢層や専門分野はますます多様化しており、もはや日本語は、日本という国のなかで日本人だけが使用する言語ではありません。世界中で、さまざまな職業の人々が日本語を使って活躍しています。その意味においては、日本語は「役に立つ」言語であると言っても差し支えないと思われます。

それでは、こうした現象はこれからも拡大していくものなのでしょうか。さらに、国際社会において日本人と外国人とが、あるいは外国人どうしてコミュニケーションを行う手段として日本語がどんどん使われるようになるためには、日本語あるいは日本人のコミュニケーションの方法に何が求められるのでしょうか。こうしたことを考えるのが今回のシンポジウムの目的であり、「国際語としての日本語の可能性を探る」というサブタイトルをつけた次第です。

#### 記念講演

きねんこうえん

今回のシンポジウムでは、まずコロンビア大学名誉教授のドナルド・キーン先生に「日本語と私」というタイトルで記念講演を行っていただきました。かつて、日本語を学習する外国人というと、日本の歴史や文学について研究する日本研究者がその大半を占めていました。ドナルド・キーン先生はまさにこの分野を代表される世界的な権威であり、キーン先生が書かれた数々のご著作を通じて、日本の豊かな文学遺産が広く海外に紹介されてきました。今回の講演では、子どもの頃の趣味だった切手収集と同じような感覚で漢字を覚えていったこと、『源氏物語』の英訳本を読んで日本文化の素晴らしさに目覚めたこと、海軍の日本語学校での日本語学習、京都留学時代の思い出、翻訳の難しさ、永井荷風をはじめとする数々の文化人との交流録など、ご自身の60年近くにわたる研究生活をふりかえりながら、日本語学習や翻訳にまつわる興味深いお話をしてくださいました。そして、講演の最後にキーン先生は、「日本文化全体が、中にいろいろいな宝物が入っている宝庫です。日本語はその扉を開ける鍵です。」とまとめられました。（キーン先生の講演の概要は、『日本語教育通信』第36号で紹介しました

が、全文が国際交流基金のホームページ( <http://www.jpfa.go.jp/j/index.html> ) に掲載されていますのでぜひご覧ください。)

## パネルディスカッション

午後を実施したパネルディスカッションでは、海外7カ国から、日常、日本語を使って仕事をしている7名の方々をパネリストとしてお招きしました。それぞれの専門分野も日本研究者、外交官、人類学者、眼科医、映画監督、実業界、芸術交流のプロモーターなど広範に及びました。

パネリストの日本語学習歴をみると、日本で幼少時代を過ごされた方、日本へ留学して高等教育を受けた方、また日本語の知識がないまま研修で1年間日本に滞在して実地で習得された方など、さまざまです。日本語を学習するうえで難しかったことについて語ったところ、漢字、敬語、同音異義語など、一般に日本語学習者が共通して難しいと感じる点については、やはり皆さん一様に苦労されたようです。また、日本語を縦横に使いこなすレベルに達するには、日本人特有の思考様式やコミュニケーションの方法、とりわけ言葉に現れない非言語コミュニケーションについての理解がなければ、日本人と十分な意思疎通ができないという点で、共通した見解が得られました。あるパネリストが語った「日本語を使えるようになるためには、私たち外国人はほんの少し日本人にならなければなりません。」という言葉が印象的でした。

では、日本語を習得してどのようなメリットがあったのでしょうか。もちろん各々のパネリストが従事している仕事は、その卓越した日本語力に支えられていることで、自国と日本との芸術交流に携わっているパネリストから、今の仕事をしているおかげで自分の国の歴史や文化を再認識できたとの発言がありましたが、これは日本語に限らず、外国語学習の大きな副産物のひとつと言えるでしょう。興味深かったのは、日本語を学習したことにより、「聞き上手」「謙虚に振る舞う」など日本的なコミュニケーションの技法が身につく、自国で高い評価を受けたという発言です。このパネリストはフランス人ですが、母語に比べ日本語には感情を表現する言葉が豊富にあるので、日本語のおかげで自然な感情表現が可能になったとも語っていました。「日本人は感情表現が下手である」とか「顔の見えない日本人」といった評価はよく耳にしますが、それとは逆に、日本語は微妙な感情を表現する

のに適した言語であるとの指摘には、新鮮な驚きがありました。

これから先、海外で日本語がもっと使われるようになるにはどうしたらよいのでしょうか。これについても

大方の意見が一致しました。すなわち、人的交流や文化交流を活発にして「日本についてもっと知りたい」「日本人と交流したい」という気持ちを高めること、そして何よりも肝要なのは、日本が「魅力のある国」になることだ、というものです。

一方、敬語や漢字を少なくして日本語を簡略にしたらどうだろうかという問題提起については、必ずしも肯定的な意見は聞かれませんでした。ロシアから来られたパネリストは自国の例を挙げて次のように語ってくれました。「帝政ロシア時代のロシア語には敬語表現がありました。しかし、1917年のロシア革命以降、こうした言い回しのほとんどはなくなってしまいました。革命の意図に反するものとして、厳しく批判されたからです。でも、敬語はロシア語の大事な一部であったのです。言語は文化の一部です。そうすると、私たちは文化の一部をも失ったと言ってもいいのかもしれない。」

## おわりに

冒頭に述べましたように、現在世界中で210万人以上の人が日本語を学習しています。この機会に、我々日本人にも、より分かりやすい日本語、より役に立つ日本語を目指して、自らの言語を見つめ直す姿勢が求められるのではないのでしょうか。また、文化交流や人的交流を盛んにして日本語学習に対するモチベーションを高めることが大切だというご意見をうかがって、国際交流基金の各セクションと連絡を密にしながら事業を進めていくことの重要性を、改めて痛感しました。

日本語を話す外国人がさまざまな分野で活躍することにより、日本の社会や文化がより世界に向けて開かれ、同時に、経済開発や科学技術の移転など、日本語を通して日本が国際社会に貢献できる。これこそが、「国際語としての日本語の可能性」ではないかと考えました。

最後になりましたが、ドナルド・キーン先生、パネリストをお務めくださった方々、そして7時間に及ぶシンポジウムを最後まで熱心にお聞きくださった聴衆の皆様





写真で見る  
日本人の生活

# 「通勤」

つう きん

このコーナーでは、国際交流基金日本語国際センターが発行している、日本語教育用「写真パネルバンク」を使って、初中等教育機関で日本語を教える先生方が、どのように日本人の生活を紹介できるかを提案していきます。また、文型、単語、漢字は、初級の学習者でも読めるようにやさしいものを使っています。今回は「社会生活シリーズ」を使って日本人の通勤について取り上げます。

## 都心の職場や学校に通うには？

と しん しよく ば がっ こう かよ



### 家から駅まで

いえ えき

家が駅から遠い人は、バスや自転車で駅まで行きます。

いえ えき とお ひと じてんしゃ えき



### 満員電車

まん いん でん しゃ

朝の7時半から9時半、夕方の5時半から7時半ごろは、ラッシュアワーといって、電車がとても混む時間です。都心では、電車の乗車率が200%をこえるときもあります。

あさ 7じはん から 9じはん、 ゆうがた 5じはん から 7じはん ころは、 ラッシュアワー といっぺ、 でん しゃ が とても 混む 時間 です。 としん では、 でん しゃ の 乗車率 が 200% を こえる とき も あり ます。





## 車を使おうとすると.....

くるま つか

都心の道は渋滞がひどいので、いつ着かわかりません。駐車場を見つけるのもたいへんです。



## 終電のあと

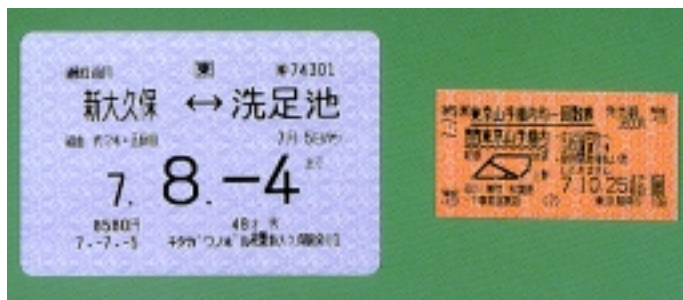
しゅう でん

電車は、たいてい午前1時ごろには終わってしまいます。そのあとは、タクシーで家に帰る人もいます。



## 定期券・回数券

てい き けん かい すう けん



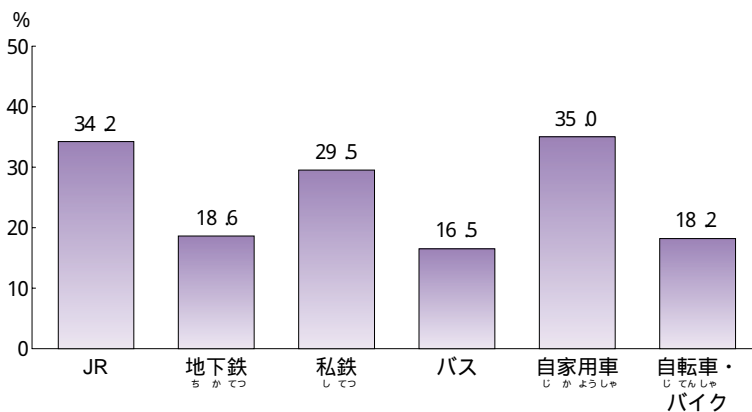
通勤や通学には、料金が割引になる定期券\*や回数券\*を使います。

\* 通勤や通勤の定期券には、1・3・6カ月の3種類があります。

\* 回数券は、ふつう、切符10枚分の料金で、切符が11枚ついています。

首都圏通勤者の利用交通機関 (首都圏70キロ圏)

しゅ と けん つう ぎん しや り よう けう つう き かん しゅ と けん けん



(「10,000人調査'95」移動者マーケティング研究会(株)JR東日本企画)

東京都市圏内の通勤時間の平均は43分で、通勤に90分以上かかる人が16.1%います。

(『東京都市圏の総合的な交通実態調査の結果概要』東京都市圏交通計画協議会平成11年調査)

# 第二言語習得研究に基づく シラバス・デザインのあり方

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科教授 長友 和彦

このコーナーでは、これから研究を目指す海外の日本語の先生方のために、日本語学・日本語教育の研究について情報をおとどけています。今回のテーマは第二言語習得研究に基づくシラバス・デザインのあり方です。

第二言語習得研究の成果はおびただしい数にのぼり、過去十年間の「第二言語としての日本語の習得研究」に限っただけでも、少なくとも千点を超える論文があります。それらの研究成果は第二言語教育にどのような示唆を与えてくれるのでしょうか。ここでは、言語教育に不可欠なシラバス・デザインに焦点を当て、そのあり方に関して、これまでの第二言語習得研究がどのような示唆を与えてくれるかということを考えてみることにします。

## (1) インターフェイスの立場で シラバス・デザインと取り組む

自然で流暢な発話能力には、無意識レベルの知識が不可欠だと言われていますが、意識的に習得した文法知識が、その無意識レベルの知識にもなっていくという考え方をインターフェイスの立場(interface position)と言います。今日では通説となっているこの立場でシラバス・デザインを考えた場合、機能シラバスだけではなく、文法シラバスも重要なシラバスということになり、その両方を組み合わせた統合的シラバス作りを目指すことになります。

## (2) 第二言語知識を分類し、それぞれの知識 に対応したシラバスを用意しておく

文法ルールを知っていてもそれが実際に使えるとは限らないということから分かるように、第二言語知識には、知っているだけの知識とそれが実際に使えるようになる知識・能力があります。また、いちいち文法ルールを意識しなくても第二言語が使えるようになることから分かるように、意識できる知識と無意識レベルの知識があることも分かります。これらの知識を組み合わせることで、第二言語知識は(一)知っていて意識できる知識(二)意

識的だけれどもそれが使える知識・能力(三)無意識レベルにある知識(四)それが自然で流暢に使える知識・能力の四種類の知識から成り立っていることが分かるのですが、それぞれが重要な第二言語知識であることから、それぞれの知識の習得をターゲットとした文法シラバスと機能シラバスを用意しておく必要が出てきます。

## (3) シラバスはモジュール化する

第二言語習得過程は、一つ一つのルールが積み上げられていく過程ではなく、中間言語(interlanguage)と呼ばれる学習者言語の全体が再構築されていく過程であること、学習者間におおまかな共通した習得過程が見られるものの、個人差が歴然としてあることから、積み上げ方式の画一的なシラバスが破綻することは目に見えていますし、そのことは歴史的にも既に検証済みです。シラバスは、それぞれの学習項目が独立してあって、さまざまなその組み合わせが可能となるようにモジュール化されなくてはなりません。

## (4) 統合的シラバスには柔軟性を持たせる

学習者のニーズ、レディネス(現有知識)、学習スタイルという習得要因も考慮して、モジュール・シラバスを組み合わせた統合的シラバスを各学習者に用意する必要があります。しかし、それらの要因は可変的なものなので、統合的シラバスは、変更なり新たな学習項目の付加が可能な柔軟なものでなくてはなりません。

## (5) 習得順序研究の成果を活用し、 習得されやすい学習項目から導入する

音声から文法、談話の領域に至るまで、習得順序に関する研究は、日本語の習得研究においても数多くありま

す。その成果を活用する場合、習得順序に添って習得されやすいものから導入し、しだいに習得が困難なものに移行するようにするのが望ましいと思われます。習得が容易なものは、学習者があまり努力しなくても習得されると考えられますが、習得が困難なものはそれなりの努力が必要となり、時間もかかると思われるので、習得を促進するためには、学習者の注意が習得困難なものにより多く向かうようにすべきでしょう。

## (6) シラバスを工夫して、文法の意識化、特にコンテキストのある文法の意識化を図れるようにする

文法の意識化は、最近の習得研究の中ではfocus on formと呼ばれてその効果が指摘されていますが、コンテキストから独立させた文法の意識化よりも、学習者と関わりのあるコンテキストの中で、言語形式とその意味と機能に学習者の注意を向けさせるfocus on formの方が、言語習得上の効果は大きいだろうとされています。

## (7) 学習者が自分自身の習得過程も意識化できるよう工夫する

習得過程の意識化とは、文法の意識化と違って、どのように目標言語を（正しく、あるいは誤って）学んで、どのような中間言語（＝学習者言語）を形成しているか、また、その中間言語をどのように（正しく、あるいは誤って）使っているかということ、何らかの方法で学習者に意識化させることです。上のfocus on formの過程でも習得過程の意識化が実現する可能性があります。習得過程の意識化は、換言すれば、学習ストラテジーの意識化ということです。その中には、当然のことながら、習得過程において不可避免的に起こる＋／－の母語転移の意識化も含まれます。

## (8) 学習者の自律的努力で文法や習得過程の意識化が可能となるようシラバスを工夫する

文法や習得過程の意識化につながるタイミングのいい誤用訂正など、教師にしかなかできないことも多々あるでしょうが、学習者の自律的努力で可能な意識化はできるだけその努力に任せるようにした方がいいでしょう。例えば、もし、学習者が「学習記録ノート」のようなものに自分の学習状況を記録していき、時々それを読み返すようになれば、それだけでも文法や習得過程の意識化は随分促進され、学習者は次の習得段階へと向かえ

るのではないかとと思われます。

ここでは、主として教室での言語学習・教育という場面を想定し、そこでの第二言語習得を促進するためのシラバス・デザインのあり方というものを考えてきましたが、当然のことながら、意図的な学習・教育活動を伴わない教室の内外、特に教室の外でのいわゆる自然習得の可能性も念頭において、シラバス・デザインと取り組まなくてはなりません。しかしながら、自然習得の可能性は大きいだろうと言われながらも、何がどこまで自然に習得され得るかという研究は遅々として進んでおらず、具体的な示唆がいろいろ得られるまでには至っていないというのが現状です。

また、実際のシラバス・デザインにおいて、第二言語習得研究の成果だけを頼りにシラバスを完成させることは不可能で、それ以外のところにもシラバス・デザインのリソースを求めなくてはなりません。例えば、誤用分析をそのリソースとして活用し、学習者が未習得と思われる項目を随時シラバスに組み込んでいくという工夫が考えられます。しかし、おそらく最も大きなリソースは、第二言語教師がその経験の中で育んできた知恵や知識だろうと思われます。そのさまざまな知恵や知識を結集させることで、実際のシラバスは完成されていくのではないのでしょうか。

## 基本的な参考文献

第二言語としての日本語の習得研究を概観した文献

(1)長友和彦 1998

「第4章・第二言語としての日本語の習得研究」『児童心理学の進歩1998年版』金子書房 79 - 110 .

(2)吉岡薫 1999

「第2言語としての日本語の習得研究－現状と課題」『日本語教育』100、19 - 32 .

第二言語習得研究に基づくシラバス・デザインのあり方に関する文献

(1)Ellis, R. 1993. The Structural Syllabus and

Second Language Acquisition. TESOL Quarterly, 27, 91 - 113 .

(2)長友和彦 1999

「第二言語習得研究の成果を活用したシラバス・デザインのあり方」『一九九九年日語教育国際研討論文集』南台技術學院應用日語系 70 - 83 .



# 授業のヒント

じゅぎょう

今回は初級レベルでの作文指導の方法について紹介します。

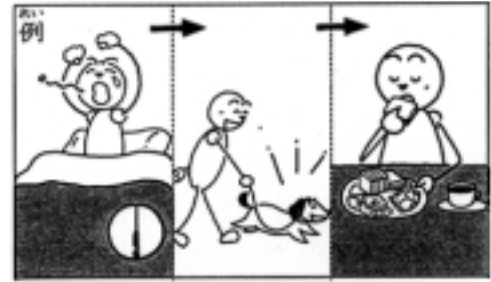
こんかい しよきゅう さくぶん じどう ほうほう  
しよがいはい

## テーマ 初級レベルの作文

しよ きゅう さく ぶん

|   |
|---|
| <b>目的・教えること</b><br>もくてき おし  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>授業で習った文型などを使って作文を書く</li> <li>作文の構成に慣れる</li> <li>インタビューをする</li> </ul> |
| <b>学習者のタイプ</b><br>がくしゅうしや   |
| 初級<br>しよきゅう   |
| <b>クラスの人数</b><br>にんずう   |
| 何人でも<br>なんにん  |
| <b>準備するもの</b><br>じゆん び  |
| 特になし<br>とく  |

（学校へ）行く」などの日常生活の動詞の「て型」が言える / 書けるように練習します。また、「それから」「～てから」「そのあと」などの接続のことばの導入・練習もします。



『みんなの日本語初級 I 本冊』P.133 練習 B 2

6時に起きて、散歩して、それから朝ごはんを食べました。

し お さん ぽ あさ た

## 短いものから長いものへ練習していく

みじか なが れんしゅう

学生からも教師からも「作文はたいへんだ」という意見をよく聞きます。学生にとっては、自由に作文を書きなさいと言われても、何を、どう書いていいのかかわからない、という問題があるようです。教師にとっては、作文の添削をする（直す）のは時間がかかるし、学生の書いた作文の意味が理解できなかつたり、びっくりするような学生の間違いをどう直していいかわからなかつたりするようです。また、初級ではことばが少なすぎるので作文指導はむずかしい、という声も聞きます。しかし、たとえ知っていることばに限られていても工夫をすれば作文の練習をすることができるのではないのでしょうか。

今回は、学生が無理なく練習できて、教師が添削する際にも直しやすいような方法を考えてみましょう。

作文を書く力を伸ばすためには、短いものから長い文章へ少しずつ練習していくことが大切です。ここでは初級の文型を利用して身近な話題について、まず、2、3文くらいの長さの文を書いたり、まとまりのある文章を書いたりする活動を紹介します。

## 一日の生活

いち にち せい かつ

「一日の生活」について話したり書いたりする活動を例にして考えてみましょう。

作文の練習の前に「起きる・(ごはんを)食べる・

さく ぶん れんしゅう まえ お た

## 文の構成を示すと書きやすくなる

ぶん こうせい しめ か

短い文を作る練習から長い作文を書く練習につなげるためには、次のようなことを教える必要があります。

- 文と文の接続の仕方
- 段落のまとめ
- 文章のはじめ方、終わり方などの文章構成

このようなことを学生にわかってもらうために、教師は文章のモデルを学生に提示したほうがいいでしょう。教科書の本文を利用することもできます。



『モジュールで学ぶ日本語 1』P.96



次の(練習1)は、絵にそって学生が文章を書けるように教師がだいたいの流れを考え、学生に一部分だけ書かせる練習です。

(練習1)前のページの絵を見て、\_\_\_\_\_に適切なことばを書いてください。

**リカさんの一日**

リカさんは、毎朝\_\_\_\_\_時に\_\_\_\_\_。それから、まず\_\_\_\_\_で、\_\_\_\_\_で、\_\_\_\_\_。その後、\_\_\_\_\_で、\_\_\_\_\_。学校の授業は\_\_\_\_\_時にはじまります。\_\_\_\_\_まで\_\_\_\_\_でから\_\_\_\_\_。夜は家族と\_\_\_\_\_。毎日忙しいです。

**答えの例：**

リカさんは、毎朝7時に起きます。それから、まず顔をあらって、ごはんを食べて、しんぶんを読んで、コーヒーを飲みます。

その後、バスに乗って、学校へ行きます。学校の授業は10時にはじまります。3時半まで勉強をします。授業が終わってから図書館で宿題をします。

夜は家族とばんごはんを食べます。毎日忙しいです。

**友だちに質問して書く内容をはっきりさせる**

作文を書く場合、書くための材料を学生が自分でみつける必要があります。そのためにはクラスの友だちに一日の生活について質問して、作文に書くことをはっきりさせるのも効果的でしょう。

**(練習2)**

**質問の例：**

- ・何時に起きますか。
- ・起きてから何をしますか。
- ・何時に学校へ行きますか。
- ・何時に昼ごはんを食べますか。
- ・何時まで勉強しますか。
- ・学校が終わってからどこかへ行きますか。
- ・何時に家に帰りますか。
- ・何時にごはんを食べますか。
- ・ばんごはんを食べてから、何をしますか。
- ・何時にねますか。

(質問は皆さんの学生に合わせて変えてください。)

質問の答えをもとにして「～さんの一日」という題名の作文を書きます。このとき(練習1)で見た文章の構成を参考にします。

**楽しく作文を書きましょう**

学生の創造力を生かすことができるというのも作文の利点です。さらに応用の練習として教師がおもしろい題名を出して、作文を書かせるのもいいでしょう。このような場合、必要なことばや表現を教えてください。

**題名例：**「困った1日」「おもしろい1日」「理想の1日」など

**作文例**

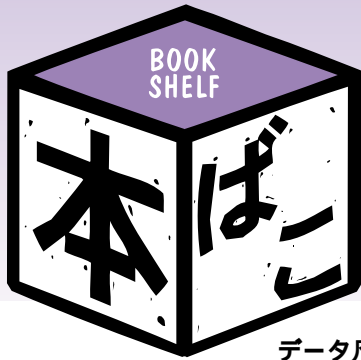
**困った1日**

私は朝8時に起きました。おそく起きたので、朝ごはんを食べないで、出かけました。自転車に乗りませんでした。バスに乗って学校へ行きました。バス代は480円でした。お金が少ししかないので、お昼ごはんも食べませんでした。3時半に授業が終わりました。その後、どこへも行かないですぐに家に帰りました。本当にお腹がすいた1日でした。

以上のように、学生に長い作文を書かせるためには、教師が順を追って指導していく必要があります。このように少しずつ練習すれば、学生の「作文嫌い」も少しなくなるかもしれませんが、教師がびっくりするような間違いをおかすことも少なくなるでしょう。

**参考文献**

1. コーベニ澤子・高屋敷真人・本間直子(1993) 『モジュールで学ぶ よくわかる日本語1・2』アルク
2. スリーエーネットワーク編(1998) 『みんなの日本語初級I本冊』スリーエーネットワーク
3. 門脇薫・西馬薫著(1999) 『みんなの日本語初級 やさしい作文』スリーエーネットワーク



「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、海外の先生にとって使いやすい教材「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っていると便利な図書・資料」などを取り上げます。

- データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

学習者の誤用とその背景と、対処法を考えるための参考書

『日本語教科書の落とし穴』



データ

- 1 新屋映子、姫野伴子、守屋三千代著
2 発行：アルク(〒168 8611 東京都杉並区永福2 54 12/TEL 03 3323 0062 FAX 03 3323 2021)
3 1999年11月30日
4 A 7574 0156 6
5 B 5 判
234ページ
1 995円

この本は教師の教え方、教科書や参考書に原因があると考えられる学習者の誤用を取り上げ、学習者が失敗しないように教えるコツを具体的に提示した教師用参考書です。

構成と内容

全体は20課から成り、各課の構成は次のようになっています。「ある日の教室で/ある日の放課後」では問題となる誤用例、「ここが落とし穴！」では誤用を生じさせた教科書と教え方に潜んでいる「落とし穴」、「解説」では誤用の背景、「実際の授業」では考えられる対処法が

それぞれ記述されています。

「第9課 無助詞」を例に見ていきましょう。「ある日の放課後」卒業生が「先生、これを召し上がってください。」と言って先生におみやげを渡す場面が取り上げられています。文法的には正しいはずなのに、どこか不自然に感じられます。この場合「先生、これ、召し上がってください」と言ったほうが自然に感じられるということです。

「ここが落とし穴」では、教室では「私は一電車と一バスで一学校へ来ます。」と教師も学生も助詞を強調した言い方をしてしまいがちですが、一歩教室の外に出ると、そこには無助詞の話しとばがあふれていることが指摘されています。またここでは話しことばによく出てくる無助詞文に単なる省略のものと独自の機能を持つものがあることが指摘されています。

「解説」では、助詞を省略してもいい、省略してはいけない、省略しなければ

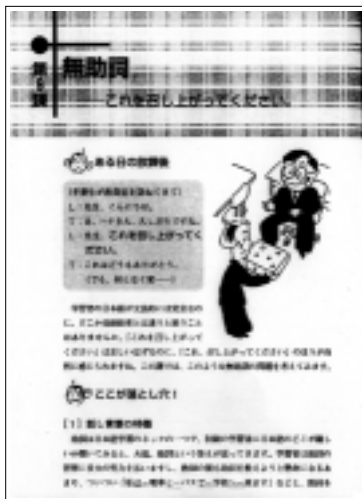
ならないという三つの場合の機能についてそれぞれ詳しく説明されています。

最後の「実際の授業」では、無助詞がいちばん自然になる場面が例文とイラストでいくつかの種類に分けて提示されており、教室で扱ったほうがいいものとその扱い方についても説明されています。

使い方

この本は各課が独立しているので、順番に見ていくこともできますし、関心のあるところだけ利用することもできます。また、上級の学習者なら自分の間違いやその間違いの背景を知ることができますし、教師なら誤用を避ける具体的な方法について、実際の授業のヒントを得ることができます。

なお、巻末にチェックシートが付いています。それは本文で取り上げた20項目のそれぞれについて、学習者の理解を確認するのに使うことができる問題を集めたものです。



『日本語の発音教室 理論と練習』



データ

■田中真一、窪園晴夫◎発行:くろし  
 お出版 (〒112 0002 東京都文京区  
 小石川 3 16 5 / TEL.03 5684  
 3389 FAX.03 5684 4762) 1999年  
 10月1日 4A 87424 176 X 5A 4判・  
 140ページ 62,100円 7CD付 別売  
 音声テープ 4A 87424 180 8560分  
 2巻 62,520円

日本語の発音や音声をきちんと勉強したいという人は多いと思います。しかし日本語の音声を全体的に説明した教材は、これまでほとんどが日本人教師を対象にしたもので、ノンネイティブ学習者のためのものはあまりありませんでした。

ここで紹介する教材は、本来は日本語を勉強する外国人留学生のために書かれたものなので、ノンネイティブの学習者が日本語の発音を勉強するのに使えます。

CD付きで、聞きながら勉強できる

発音の練習をするときには、本を読むだけでなく、実際に音を聞けば、もっとよく理解することができます。この教科書にはCDが付いているので、教科書の例文や練習問題の一部を、日本人の発音を実際に聞きながら勉強することができます。

また、別売りですが、カセットテープもあります。CDが使えない環境の人は、こちらを使うことができます。なお、テープのほうには、例文と練習問題がすべて録音されています。

役に立つ「イントネーション」の章

この本は、第1章「母音と子音」、第2章「リズム」、第3章「アクセント」、第4章「イントネーション」という構成

になっています。その中で、第4章のイントネーションの説明は大切で、この教材のいちばんの特徴と言えるでしょう。

日本語をできるだけ自然な発音で話すためには、単語のアクセントや文の意味を考えながら、文全体を正しいイントネーションで発音することが必要です。しかしこれまでの本では、イントネーションの説明は少ししかないことが多く、またその内容は、ほとんどが文末のイントネーションのことだけでした。

それに対してこの本では、イントネーションのことを多くのページを使って説明しています。文末のことだけでなく、単語のアクセントと文のイントネーションとの関係や、文のフォーカス(聞いている人にいちばん伝えたい部分)がイントネーションにどう現れるか、文の構造の違いをイントネーションでどう区別するかなど、文全体のイントネーションについてくわしく知ることができます。

発音の理論的知識を身に付けるために

もちろんイントネーションだけではなく、音の変化や拍の特徴、アクセントの規則などいろいろいるなことが、言語学・音声学の立場から説明されています。説明には歌や俳句、マンガなども使われ、日本語の発音の「理論」を理解することができます。

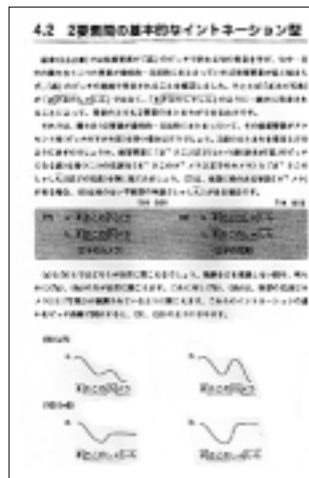
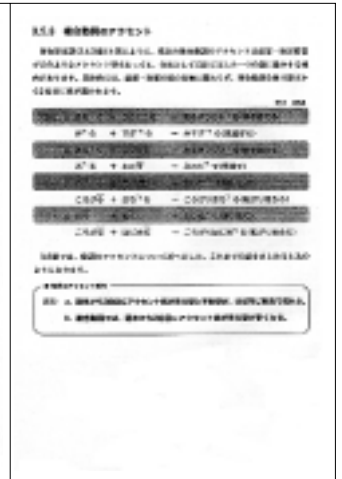
ただし「練習」については、「気をつけて発音しましょう」というだけのものがほとんどで、その音の苦

手な人がどうすれば上手に発音できるようになるかという具体的な練習方法のアイデアは、紹介されていません。ですからこの本は「日本語が上手に発音できるようになりたい」という人よりも、「実際に発音を聞きながら、日本語の聞き取りを練習したい」という人や「日本語の発音についての理論的な知識を身につけたい」という人に向いていると言えます。

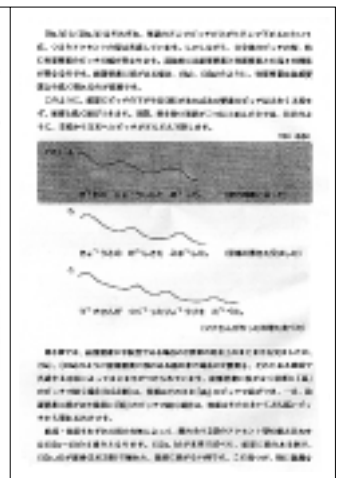
なお、本文の漢字にはふりがなもありますが、一度出てきたものには次からはつけられていません。また難しい語彙もたくさん出てきますので、本文の説明を正しく理解するためには十分な日本語力が必要です。



P. 96 - 97



P. 82 - 83



p.18~21は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

高偉建、磯村一弘、内藤満、木山登茂子、向井園子、藤長かおる(執筆順)



# 読み書きを柱に中級から上級をめざす教科書 『日本語中級 J501 - 中級から上級へー 英語版』

## データ

■土岐哲、関正昭、平高史也、新内康子、石沢弘子 2 発行：スリーエーネットワーク 〒101 0064 東京都千代田区猿楽町 2 6 3(松栄ビル)/TEL. 03 3292 5751 FAX.03 3292 6195) ■1999年11月15日 ■A 4 判・364ページ ■B 2 940円 別売 教師用マニュアル ■A 4 判 88319 144 ■3 ■A 4 判・188ページ ■B 2 940円 CD ■A 4 判 88319 145 1 ■A 4 判・188ページ (教師用指導書付) ■B 3 570円

これはすでに出版されている『日本語中級J301 - 基礎から中級へ』の続編です。本冊、教師用マニュアル、CDの3点が揃っています。中級から上級への橋渡しを目指した教科書です。おもに大学進学準備をしている人をめやすとして書かれていますので、読みの学習が中心になります。

ります。しかし、それだけではなく、書いたり話したりするための練習もたくさん用意されています。

本冊には10の課があります。各課の内容は次のとおりです。①読む前に、②本文、③読み方の工夫、④Q&A、⑤文法ノート、⑥練習A(文法) ⑦練習B(ストラテジー練習) ⑧ことばのネットワーク、⑨書いてみよう、⑩話してみよう。

①は本文を読む前の準備です。②で本文を読んで、ざっと意味をとります。③で読みのプロセスをいろいろな角度から検討した上で、④で読みの理解をチェックします。⑤には本文に出てくる重要な文法項目について英語で説明があり、⑥ではその運用練習をします。ここでは、書き言葉の学習もします。⑦では、③で学んだことを踏まえて、未習語彙を含む文を早く正確に読むための練習を

します。⑧では語彙を増やします。⑨では読みの練習の中で学んだ文章構成やその流れを考えながら、自分で書いてみます。⑩は、⑨を踏まえて、話し言葉の表現を練習します。

姉妹編の『日本語中級J301』と同じく、教師用マニュアルが充実しているのもこの本の特徴です。また、巻末には語彙索引はもちろん、各課ごとの学習項目がのっているので、学習者が学んだことを確認できて便利です。

P.100～101



## 現代日本社会を理解し、意見交換することができる 『日本の断面 - 読解から会話、作文へ - 』

## データ

■1 宮原彬 2 発行：東研出版 〒101 0051 東京都千代田区神田神保町 1 8 / TEL.03 3292 8723 FAX.03 3292 8723) ■3 1999年12月10日 ■A 4 判・230ページ ■B 2 310円

本書は日本語学習の中級後期から上級段階の学習者のための教材です。各課は本文、「漢字の読み方」、「語句の使い方」、「話す練習」、「書く練習」から成ります。この構成に表れているとおり、読解、会話、作文を通して総合的に日本語力をつけることを目指した教材です。

学習が上級段階まで進むと、読解教材を選ぶ観点も、学習者の学習目的、学習方法などにより異なってきますが、本書は上級の技能の一つにあげられる、行間

から著者の主張を読み取る力をつけたいという学習者に適しています。本文の文章(1,000字～2,000字程度)は、いずれも日本で出版された本や新聞から、次の四つの観点で選ばれています。①日本社会の現状を反映しているもの、②学習者が母国の問題と関連させとらえることができるもの、③学習者自身が感想・意見を持つもの、④予備知識がなくても読めるもの。

内容は、生活、住宅、企業と労働、教育、高齢化社会、環境、国際協力の七つのテーマにわたり、現代の社会問題が幅広く取り上げられています。本文には社会の現状の他に、著者の問題意識や意見などが含まれています。「話す練習」には「キーワード」が付されているので、学習者は本文の内容に関連する質問に対して、「キーワード」をヒントにしながら

話す練習ができるという仕組みになっています。

本書は以上のように上級の学習者に役立つ内容を多く盛り込んでいますが、構成がたいへんシンプルで練習の種類はあまり多くありません。本書を使用する際は、学習者の目的に合わせて他の教材や練習と併用して使うとより効果的な学習ができるでしょう。

| 目次                  |     |
|---------------------|-----|
| はじめに                | 3   |
| 《特典一覧》              | 6   |
| I 生活                |     |
| 1. 時間を奪いとられた生活 (1)  | 7   |
| 2. 時間を奪いとられた生活 (2)  | 12  |
| 3. 外食産業             | 18  |
| 4. 健康産業             | 23  |
| 5. 自動車の普及           | 28  |
| 6. 少子化進行で見える社会のゆがみ  | 34  |
| 7. 携帯電話             | 42  |
| 8. 電子メールとトラブル       | 46  |
| 9. 流出する個人情報         | 52  |
| 10. 人にも環境にもやさしくない技術 | 61  |
| II 住宅               |     |
| 11. 住宅は生活の容れもの (1)  | 67  |
| 12. 住宅は生活の容れもの (2)  | 72  |
| 13. 居住を保障しない国家      | 78  |
| III 企業と労働           |     |
| 14. 日本の経路           | 85  |
| 15. 芽生え競争のなかで       | 91  |
| 16. 企業への精神的従属       | 97  |
| 17. 義理を欠くことの大切さ     | 103 |
| 18. 増える持ち帰り残業       | 108 |





# 初級からまとまりのある文章を練習する

## 『みんなの日本語初級 やさしい作文』

### データ

■門脇薫、西馬薫発行：スリーエーネットワーク 〒101 0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3(松栄ビル) / TEL .03 3292 5751 FAX .03 3292 6195) 1999年11月12日 4 88319 142 75A 4判・124ページ 1 260円

■別冊 解答付

これは、初級からまとまった文章が書けるようになるためのワークブックです。特定の語彙や文型を使って短文を作るような作文練習ではなく、談話の流れを意識させる作文練習が特色になっています。全部で20のユニットがあり、基礎編と応用編に分かれています。ユニット1～15は基礎編で、『みんなの日本語』初級I、初級IIの語彙や文型を使っています。ユニット16～20は応用編で、意見文を書くなど中級につなげる練習になっています。ユニットごとに、「わたしの家

族」「わたしの国・町」「楽しい一日」などの身近なテーマが決められています。また、別冊に、新出語彙の英語・中国語・韓国語の翻訳や教師用マニュアルが収められています。

ユニットは、次の①～⑥で構成されています。①「フローチャート」では、談話の流れがわかるように、作文の全体的な構成を図で示しています。例えば、「旅行」というテーマの作文では、まず、どこへ行ったか、次に、行ったところの説明、最後に全体的なコメントを書くという3段階の構成が示されています。②「モデル文」は文章の構成をわかりやすく示す具体例です。③「作文のポイント」には談話レベルで注意する点の練習があります。④「みんなで話しましょう」には、テーマについて話し合うための質問が出ています。但し、ユニット1～4では、代わりに「関連語彙」が載せられています。⑤「作文メモ」は作文を書く準備

として、作文の各構成部分の中心文をメモするためのページで、⑥「書きましよう」は実際の作文の原稿として使えるページです。

この教材は、『みんなの日本語』初級I、初級IIに準拠していますが、身近なテーマで作文を書いてみようと思う初級の学習者なら、だれでも使えるでしょう。



P. 45

# 学ぶこと、教えることについて考えたい人のための本

## 『日本語教育と日本語学習 - 学習戦略論にむけて - 』

### データ

■J.V. ニューストブニー、伴紀子、宮崎里司、浜田麻里、吉野文、横須賀柳子、村岡英裕、伊東祐郎、岡崎眸、岡崎敏雄、斉藤里美、田中望、春原憲一郎、H. マリオット、J. ルーピン著、J.V. ニューストブニー、宮崎里司 編 発行：くろしお出版 〒112 0002 東京都文京区小石川3-16-5 / TEL .03 5684 3389 FAX .03 5684 4762) 1999年10月1日 4 87424 179 45 A 5判・240ページ 2 310円

この本は、学習戦略\*に関するこれまでの研究成果を、日本語教育の立場からまとめたものです。気鋭の研究者による15の論考は、読者に多くの示唆を与えてくれることでしょう。

全体は、総論(第1章～4章)各論(第5章～10章) 学習戦略への提言(第11章～15章)という3つの部分から成っています。

まず、第1部の「総論」では、学習戦略とは何かを明らかにし、90年代初頭から現在に到るまでの日本語教育における学習戦略研究の流れを概観した上で、学習戦略についての実証的な研究方法が整理されています。

次に、第2部の「各論」では、文法的学習戦略、語彙や漢字学習の学習戦略、読解学習戦略など、日本語教育における学習戦略の各研究領域について、議論がすすめられています。また、ここでは、学習スタイル、確信(ピリーフ)といった学習戦略と関係のある問題についても触れられて

います。

最後に、第3部の「学習戦略への提言」では、学習戦略の意味について、社会や教育現場と関連して、さまざまな視点から意見が出されています。

この分野の研究に興味のある人はもちろんのこと、教えること、学ぶこと、そして教育とは何かということに関心を持っている現場の先生方に、ぜひ薦めたい一冊です。

### (注)

\*学習戦略とは「学習者が言語を習得するために自律的に使っているいろいろな行動(本書3頁)と定義されています。



表紙

# 国際交流基金開発教材紹介

こく さい こう りゅう き きん かい はつ きょう ざい しょう かい

日本語国際センター制作事業課  
にほんごこくさい せいさくじぎょうか

## 1 『写真パネルバンク』CD ROM 刊行

しゃしん かんこう

美しい写真で日本の事物を紹介できると好評の、日本語教育『写真パネルバンク』I～V全シリーズが、音声検索機能及び英訳を加えて1枚のCD ROM(Windows/Macintosh両対応)になりました。日本語フォントをインストールしていないパソコンでも閲覧でき、日本の事物や行事、日本人の行動等のパネルが手軽に検索できます。既刊の『写真パネルバンク』シリーズと併せてご利用ください。

### CD ROMの特徴

とくちょう

#### 4つの言語モード

げんご

利用者の日本語運用力や目的にあわせて、画面の表示を「漢字(漢字かな混じり、ふりがななし)」「かな(かな書きまたはふりがな付き漢字かな混じり)」「ローマ字」及び「英語」の4つの言語モードから選択できます。

#### 2つの検索方法

けんさくほうほう

「目次検索」と「キーワード検索」の2種類の検索方法で、I～Vの全シリーズから、パネルを検索することができます。

「目次検索」では、見たいパネルを目次から探すことができます。

「キーワード検索」では、設定されたキーワード(物の名前や行動を表す言葉(動詞)など)に関連したパネルを検索できます。(写真1)

けんさく しゃしん



写真1 キーワード検索画面(漢字モード)

けんさくがめん かんじ

### 音声再生

おんせいさいせい

画面に表示される、「語彙」(IシリーズとVシリーズのみ)と「説明文」(全シリーズ)の音声を聞くことができます。

この他、写真の拡大表示、日本人の一日の行動関連パネル検索(写真2)など、機能満載です。語彙の導入、日本事情の紹介などに、是非ご利用ください。

### 対応OS

たいあう

Windows : Windows95 / 98

Macintosh : MacOS7 5以上



写真2 家族の1日の行動パネル検索画面

しゃしん がぞく にち こうどう けんさくがめん



写真3 パネル画面(英語モード)

しゃしん がめん えいご



写真4 地図などの追加情報も表示

### 既刊のシリーズの内容構成とパネル枚数

- I . 衣食住と生活シリーズ (107枚)
- II . 社会生活シリーズ (156枚)
- III . 自然と余暇シリーズ (108枚)
- IV . 行事シリーズ (125枚)
- V . 日常生活シリーズ (147枚) 全643枚

ご購入のお問い合わせは、日本出版貿易(株)  
(TEL: +81 3 3292 3755、FAX: +81 3 3292 8766)へ。

定価 18,000円(税抜)  
ISBN 4 88996 053 8



写真5 日本語以外のOS(日本語フォントなし)でも閲覧可能  
(例:韓国語版、写真は画面の一部)

## 2『教科書を作ろう』収録データCD ROM完成

日本語国際センター制作事業課では昨年3月に、中等教育向け初級日本語教材集「教科書を作ろう せつめい



編/れんしゅう編」を刊行しました。この素材集は、海外の日本語教育の現場に合った教材開発の一助となることを目的として、語彙の差し替えや翻訳などの加工、また部分利用を可能にしています。(詳細は『日本語教育通信』34号か、日本語国際センターのホームページ(<http://www.jpff.go.jp/j/urawa>)を御覧ください。)

そして、この度、その利便性を高めるために素材集に収録した内容を電子化し、一般的なワープロソフトやデータベース・スプレッドシート上で手軽に使用できるよう、テキストファイル・イラストファイルにしてCD-ROMに収録しました。「教科書を作ろう」にある例文や図、イラストのDTP編集や資料データベースの構築などにご利用ください。

本品は非売品です。入手を希望する学校・機関には無料で配布しますが、個人には配布できません。入手を希望する学校・機関は、下記宛申込用紙を御請求ください。申込用紙フォームは日本語国際センターのホームページ(前述)にも掲載されていますので御覧ください。

国際交流基金日本語国際センター制作事業課  
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36  
電話: +81 48 834 1183  
FAX: +81 48 831 7846

本CD ROMには『れんしゅう編』付属テープの音声は収録していません。冊子の中の文字とイラストのみを収録しています。

本CD ROMには日本語フォントや日本語入力システムは付属していません。収録データを使用するためには、お使いのコンピュータに日本語が使用できる環境が必要です。

# NEWS NEWS NEWS ニュース

## 1999年度日本語能力試験の結果について

昨年12月5日(日)に国際交流基金と(財)日本国際教育協会の共催で実施された、1999年度日本語能力試験の結果がまとまりました。試験は日本国外33の国・地域の75都市、日本国内6地域で実施され、日本国外で132,241人(前年度比約31%増)、日本国内で34,334人(同約16%増)が受験しました。

各級の受験者数、認定者数、平均点は、別表のとおりです。

| 級別     | 受験者数(人) |         | 認定者数(人) |      | 認定率(%)<br>B/A | 平均点<br>(400点満点) |
|--------|---------|---------|---------|------|---------------|-----------------|
|        | A       | B       | B       | A    |               |                 |
| 国<br>外 | 1級      | 27,523  | 9,837   | 35.7 | 255.6         |                 |
|        | 2級      | 36,388  | 11,931  | 32.8 | 216.4         |                 |
|        | 3級      | 39,278  | 20,836  | 53.0 | 240.8         |                 |
|        | 4級      | 29,052  | 11,988  | 41.3 | 221.7         |                 |
|        | 小計      | 132,241 | 54,592  | 41.3 | -             |                 |
| 国<br>内 | 1級      | 21,161  | 9,265   | 43.8 | 263.7         |                 |
|        | 2級      | 6,521   | 2,663   | 40.8 | 227.3         |                 |
|        | 3級      | 4,375   | 3,343   | 76.4 | 280.9         |                 |
|        | 4級      | 2,277   | 1,579   | 69.3 | 266.1         |                 |
|        | 小計      | 34,334  | 16,850  | 49.1 | -             |                 |
| 合計     | 166,575 | 71,442  | 42.9    | -    |               |                 |

なお、2000年度の試験は12月3日(日)に実施されることになりました。詳細は、7月頃に下記までお問い合わせ下さい。

### 海外:

国際交流基金関西国際センター試験課  
〒598 0093 大阪府泉南郡田尻町

## 編集部から

3月について1998年日本語教育機関調査の結果を発表することができました。'98年の調査にご協力いただいた機関の皆様、ありがとうございました。

日本語教育国別情報ホームページ(<http://www.jpf.go.jp/j/urawa/kunibetsu/>)もあわせて開設いたしました。世界全体の状況を知りたい方は「海外の日本語教育の現状」を、国別の情報を知りたい方はホームページをご覧ください。

通信は、日本語国際センターの元研修生と、機関調査結果をもとにした世界115

\*この欄にふさわしい情報やニュースがありましたら、下記までお寄せください。

国際交流基金日本語国際センター情報交流課  
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36

Research and Information Division, The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa, 6-36 Kita-Urawa 5-chome, Urawa-shi, Saitama 336-0002, Japan

りんくうポート北3 14  
TEL: +81 724 90 2603  
FAX: +81 724 90 2803  
E-Mail: [jlptinfo@jpf.go.jp](mailto:jlptinfo@jpf.go.jp)  
ホームページ:  
<http://www.ijnet.or.jp/jpf/jlpt/contents/home.html>

### 国内:

財団法人日本国際教育協会  
事業部日本語・統一試験課  
〒153 8503 東京都目黒区駒場4 5 29  
TEL: +81 3 5454 5215  
FAX: +81 3 5454 5235  
ホームページ:  
<http://www.aieje.or.jp/index2.html>

## 第5回海外日本語教育研究会「マレーシアの日本語教育」開催

平成12年3月11日(土) 国際交流基金日本語国際センターで第5回海外日本語教育研究会「マレーシアの日本語教育」が行われました。

研究会では、第1部でマレーシアにおける日本語教育の概要が報告された後、第2部でレジデンシャル・スクールと呼ばれる中等教育段階での日本語教育の紹介がありました。1984年開始当初の6校から29校に日本語科目設置校が増え、教師も日本から派遣された日本人教師からマレーシア人教師に変わってきた状況などが報告されました。第3部では、現地の予備教育課程を経て日本へ留学したマレーシア人学生の大学での適応や就職後の現地社会との関わりなどが報告されました。マレーシアは、国家的な政策の一部として今までに約1,600人の学部留学生を日本へ送っていますが、その一人と

して、この留学制度で日本で学んだマレーシア人日本語教師がその経験や感想を発表しました。

当日は100名あまりの出席者があり、それぞれの発表に熱心に耳を傾けていました。

この研究会の資料及び次回のお知らせは当センターのホームページに掲載されますので、ご興味をお持ちの方はぜひご覧ください。

## 著作権フリーの画像入りCD ROMを実費で配布

『日本語教育通信』第34号の「教育実践レポート」でも紹介した、Washington and Lee University(米国)の、東洋学部日本語科では、著作権を心配せずに教材として使える静止画/ビデオ画像を希望者に実費で配布しています。

食べ物、住居などの静止画が約430枚とビデオ画像が約2時間半分で、ビデオの内容は以下のとおりです。

1. カタカナ読み方練習用ビデオ(約1時間分)
  2. 「X(場所)にY(人/物)がいます/あります」(約15分)
  3. 「X(時間)にY(動作)をします」(約15分)
  4. 許容使役(約10分)
  5. 基本動詞(約10分)
  6. 時の表現「ところ」(約10分)
  7. 市販ビデオの映像の一部(約30分)
- これらの画像は、CD ROM 3枚で13ドル(郵送料込み)で配布されています。詳しくは以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.wlu.edu/~kujie/>

## 『日本語教育通信』第37号

2000年5月発行

発行・編集 国際交流基金  
日本語国際センター 情報交流課  
〒336 0002 埼玉県浦和市北浦和5 6 36  
The Japan Foundation  
Japanese-Language Institute, Urawa  
(6-36 Kita-Urawa 5 chome, Urawa-shi,  
Saitama 336-0002, Japan)  
TEL 048 834 1184 FAX 048 830 1588  
E-Mail [jfnckt@jpf.go.jp](mailto:jfnckt@jpf.go.jp)  
編集協力  
財団法人 国際文化交流推進協会  
Assoc. ACE Japan (Japan Association for  
Cultural Exchange)  
© 2000 by The Japan Foundation

(表紙イラスト: 村井宗二)